

# 様々な年齢層を取り込んだ生涯学習推進の在り方

令和6年3月

名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課



## はじめに

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の英語の頭文字を取ってVUCAの時代とも言われています。少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展と国際的な地位の低下、地球規模の課題、子どもの貧困、格差の固定化と再生産、地域間格差、社会のつながりの希薄化などの社会の課題があります。また、経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング」の考え方が重視されてきています。

文部科学省「教育振興基本計画」（令和5年6月）（以下、「基本計画」）では、上述の我が国の教育をめぐる現状・課題・展望を踏まえ、総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げています。両者は「今後我が国が目指すべき社会及び個人の在り様として重要な概念であり、これらの相互循環的な実現に向けた取組が進められるよう教育政策を講じていくことが必要である。」と述べています。

また、今後の教育政策に関する基本的な方針の一つとして「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」を掲げ、「社会教育施設には、オンラインによる講座等の受講機会の拡充やデジタル教育の充実とともに、住民同士が対面によりつながりを持てる機会の充実も求められる。あわせて、学校施設との複合化や、文教施設を官民連携で整備することも、地域コミュニティの拠点を形成する上で重要である。」と述べています。

中央教育審議会生涯学習分科会「今後の生涯学習・社会教育の振興方策（重点事項）について」（令和5年）では、「地域づくりを支える社会教育の実現」をめざし、一人一人の生活と地域づくりを支える「学びと実践」の機会と場を提供する「地域の学びと実践プラットフォーム」としての役割を、社会教育人材・施設がその専門性を生かし、連携して担うことを示しています。

生涯学習は、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本として、生涯を通じて行うものであり、長寿化が進展する人生100年時代において、生涯を通じたウェルビーイングの実現につながる重要な意義を有するものです。子どもや若者、社会人、高齢者など、年齢を問わず学び続け、生涯学習を通じて自らの向上や地域や社会への貢献の意欲をもち、当事者として地域社会の担い手となる人を尊重する社会がめざされるべきであり、そのために社会教育が果たす役割は大きいと考えます。

そこで、「様々な年齢層を取り込んだ生涯学習推進の在り方」を主題として研究を進め、本年度は若年者が社会に役立っているという達成感を感じ、人とつながることができるよう、社会教育施設を中心として様々な年齢層がつながりをもつことができる取組を提案します。

本研究を、今後の生涯学習に関する講座・事業の展開について考える際の参考資料としてご活用していただければ幸いです。

令和6年3月

名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課

## 目 次

### はじめに

I	国の動向・本市生涯学習課の現状と課題	1
1	国の動向	
	(1) 教育振興基本計画における総括的な基本方針・コンセプト	
	(2) 基本的な方針	
2	本市生涯学習課の現状と課題	
	(1) 生涯学習に関する市民意識調査より	
	(2) 名古屋市生涯学習センター講座・事業実績より	
II	他都市の先進事例	4
1	社会教育施設に様々な年齢層を取り込む工夫	
2	社会教育施設を活用して様々な年齢層がつながる工夫	
III	研究の方向性	5
IV	研究の内容	6
1	瑞穂生涯学習センターを活用した事例①	
2	瑞穂生涯学習センターを活用した事例②	
3	南生涯学習センターを活用した事例	
V	おわりに	13

### 資料編

## I 国の動向・本市生涯学習課の現状と課題

### 1 国の動向

「基本計画」の中で述べられている様々な年齢層を取り込む生涯学習推進に関わることを国の動向としてまとめる【資料1】。

#### (1) 教育振興基本計画における総括的な基本方針・コンセプト

##### ○ 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

一人一人のウェルビーイングを実現していくためには、この社会を持続的に発展させていかなければならない。特に我が国においては少子化・人口減少が著しく、将来にわたって財政や社会保障などの社会制度を持続可能なものとし、現在の経済水準を維持しつつ、活力あふれる社会を実現していくためには、一人一人の生産性向上と多様な人材の社会参画を促進する必要がある。また、社会課題の解決と経済成長を結び付けて新たなイノベーションにつながる取組を推進することが求められる。

こうした社会の実現に向けては、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要である。将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められる。

##### ○ 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。

日本社会に根差したウェルビーイングの要素としては、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現（達成感、キャリア意識など）」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などが挙げられる。これらを、教育を通じて向上させていくことが重要である。

生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切である。

ウェルビーイングが実現される社会は、子どもから大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。社会全体のウェルビーイングの実現に向けては、個人のウェルビーイングが様々な場において高まり、個人の集合としての場や組織のウェルビーイングが高い状態が実現され、そうした場や組織が社会全体に増えていくことが必要となる。その広がり一人一人の子どもや地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる。

#### (2) 基本的な方針

総括的な基本方針の下、5つの基本的な方針が定められ、その一つとして「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」が掲げられている。

○ 社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成

社会教育は、地域住民が共に学ぶものであり、地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。近年、防災、福祉、産業振興、文化交流など、広義のまちづくり・地域づくりに関する多様な行政分野において、その地域課題の解決に向けて、関係省庁が地域コミュニティに関する政策を提示している。これらの政策は地域コミュニティが維持されていてこそ機能するものであり、社会教育の役割が重要となる。

地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。地域で人と人とのつながりを作り、協調的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが自信と誇りを持つことができるようにしていく必要がある。

○ 公民館等の社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成と活躍機会の拡充

社会教育施設には、オンラインによる講座等の受講機会の拡充やデジタル教育の充実とともに、住民同士が対面によりつながりを持てる機会の充実も求められる。あわせて、学校施設との複合化や、文教施設を官民連携で整備することも、地域コミュニティの拠点形成の上で重要である。

社会教育に対するニーズが高まる中、地域において社会教育活動を支える社会教育主事及び社会教育士の役割はその重要性を増している。都道府県・市町村における社会教育主事の配置促進や社会教育士の活躍機会の拡充に向けた取組を推進することが必要である。

## 2 本市生涯学習課の現状と課題

### (1) 生涯学習に関する市民意識調査より

本市における「生涯学習に関する市民意識調査」（令和3年）では、令和4年4月から成人年齢が引き下げられることを受け、対象年齢を18歳以上とした。10代の生涯学習に対する意識・動向としては、過去1年間に生涯学習を行ったことが「ある」と回答した割合は55.6%であり、全体の割合である39.3%を大きく上回っていた。しかし、生涯学習の方法について「生涯学習センターや区役所など公的な施設で開催された講座や教室への参加」と回答した割合が0%となっており、各区の生涯学習センター（以下、センター）の利用については課題が残る結果となった【資料2】。

20代の生涯学習に対する意識・動向としては、過去1年間に生涯学習を行ったことが「ある」と回答した割合について、71.1%（男性）、59.4%（女性）となっており、前回調査（平成30年）の32.3%（男性）、55.6%（女性）に比べ上回っている。しかし、生涯学習の方法について「生涯学習センターや区役所など公的な施設で開

催された講座や教室への参加」と回答した割合について、0%（男性）、5.3%（女性）となっており、前回調査の10.0%（男性）、11.4%（女性）に比べ、下回っている【資料3】。また、「どのような内容の生涯学習を行ったか」という設問には、社会問題の解決やまち（地域）づくりと回答した割合について、10代男女0%、20代男性11.1%、20代女性5.2%と低くなっている。

今後の方向性として、公的な施設を利用して学びのきっかけを得る市民の姿を引き出すために、これまで生涯学習を行っていない市民、これから学び始めたい市民、既に学んでいる市民に対して、気軽にセンターの講座・事業に受講することができるような工夫が必要である。地域の世代間交流を促進する意味でも、生涯学習の方法として公的な施設を利用する割合が低い若年者層への働きかけが重要であると考えられる。また、生涯学習の内容として社会問題の解決やまち（地域）づくりに関心を持ち、社会に役立っているという達成感を感じるためには、センターが生涯学習を行っている若年者層の受け皿となり、様々な年齢層を取り込むことができるようにするなど、社会教育施設を中心とした生涯学習推進の在り方を検討していく必要があると考える。

## (2) 名古屋市生涯学習センター講座・事業実績より

令和4年度におけるセンターの定期講座・事業の年代別受講者数の割合は、70代が最も多く36.0%、20代が最も少なく1.5%となっている。トライアルサマーやトライアルウインターの事業など親子での講座受講があり、10代以下は6.5%となっている【資料4】。

本市のセンターにおいては、平日の午前や午後などに講座・事業が設定されることが多く、高齢者や子育て世代の保護者が受講の中心となっている。そのため、受講者の年代に偏りが見られるが、同じ年齢層や子育て世代などで学びを通じたつながりを作り出し、地域コミュニティの形成に向けた一定の役割を果たしていると考えられる。学びを通じたつながりは地域社会における「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み出し、地域全体のウェルビーイングの向上をもたらすことにつながるため、様々な年齢層をさらに取り込む必要がある。特に年代別受講者数の割合が低い10代以下、20代を中心とした年齢層を取り込む必要があると考える。

令和5年度から本市生涯学習課が高校生と協働で行っている事業として、昭和生涯学習センター「初心者大歓迎！この夏、一緒に将棋好きになろう！」、千種生涯学習センター「集まれ！囲碁ビギナーズ」、西生涯学習センター「初心者大歓迎！一緒にイラストを描いて楽しもう！」がある。また、瑞穂生涯学習センターで毎年行っている定期講座「こどもまつりを盛り上げよう」（令和2～4年度は中止）では、大学生が講師役となってボランティア活動をしている。それぞれの事業は、本市生涯学習課と協働で行っているものの、講座・事業全体の数に対して若年者層を取り込んだ講座・事業は少ない。そのため、様々な年齢層を取り込み、学びを通じたつながりづくりを見据えた講座・事業を展開していくことが必要であると考えられる。

## II 他都市の先進事例

### 1 社会教育施設に様々な年齢層を取り込む工夫

#### ○ 島根県 久佐公民館「ふるさと遊楽校」【資料5】

##### 【目的】

保護者同士の交流を図るとともに、地域活動に参画させることで、持続力のある地域づくりをめざす。また、様々な年齢層が参画することで、交流を生み、将来的に地域活動の担い手となるようにする。

##### 【工夫】

きっかけづくりとして、様々な年齢層が関わり合う場の設定や活動に対する意識調査に取り組んでいる。また、実行委員形式の会議を開催し、年間スケジュールの作成を行うとともに、協力可能な地域の団体に呼び掛け、プログラムの作成を依頼している。

##### 【成果】

若年者層と公民館とで話し合う場を設けたことで、人材の掘り起こしにつながった。また、振り返りの場をもつことで、継続した開催につなげることができた。

##### 【参考となる点】

この事例から、様々な年齢層を取り込む工夫として、様々な年齢層が関わり合う場の設定や活動に対する意識調査の取組によって、新たな人材を掘り起こしている点が参考になる。

本市でも、センターにおいて、様々な年齢層が関わり合う場を設けることによって、社会教育施設に様々な年齢層を取り込むことにつながると考える。

#### ○ 島根県 玉湯公民館「喫茶『玉つばき』」【資料6】

##### 【目的】

「玉湯っていいね！があふれる元気なまちにしよう！」を基本目標とし、玉湯町の歴史や風土を活かした拠点を作り、いつまでも住んでいたい地域づくりに取り組むようにする。

##### 【工夫】

週3回（火・水・金）の午前10時から午後3時に公民館の玄関ロビーで喫茶「玉つばき」を開催し、玉湯の歴史や風土を活かす場（拠点）として気軽に立ち寄ることができるようにしている。

##### 【成果】

平成22年より継続して開催され、平成30年度には、延べ5万人の利用者を達成することができた。

##### 【参考となる点】

この事例から、公民館の玄関ロビーを地域の交流の場として活用し、気軽に立ち寄ることのできるようにしている点が参考になる。

本市でも、様々な年齢層が気軽に立ち寄ることのできるようセンターのロビーを活用した取組を継続して実施していくことで、社会教育施設に様々な年齢層を取り込むことにつながると考える。



## 2 社会教育施設を活用して様々な年齢層がつながる工夫

### ○ 青森県 鶴田町公民館

「キャンドルナイトでつながろう in 津軽富士見湖」【資料7】

#### 【目的】

観光資源としての「夜の津軽富士見湖」のPRはもちろんのこと、イベントに共感し、協力した町内外のスタッフとのつながりを強めていくようにする。

#### 【工夫】

町内の幼稚園や保育園と連携し、園児が家族と参加できるキャンドル作りのワークショップを開催している。さらに、実行委員会が、特産物を使用したオリジナルスイーツを開発し、イベント内で参加者に提供している。イベント後には、アフターミーティングを実施し、今後に向け、活動の継続を促している。公民館だけではなく、他所とも連携しながら、イベントを開催し、様々な年齢層のつながりをもてるようにしている。

#### 【成果】

イベント当日は、家族で参加した人や口コミで参加した人が多く、ワークショップによって様々な年齢層を取り込む結果となった。また、津軽富士見湖という魅力的な資源（場所）を活用して、キャンドルナイトというイベントを開催することで様々な年齢層のつながりを生むことができた。

#### 【参考となる点】

この事例から、イベント開催において、魅力的な資源（場所）を活用したり、他所と連携し、様々な年齢層の参加を促す内容を盛り込んだりすることで、様々な年齢層のつながりがもてるようにしている点が参考になる。また、アフターミーティングにより、今後の活動の継続を促している点が参考になる。

本市でも、センターを利用して、魅力的な資源となり得るものを掘り起こし、他所と連携し、様々な年齢層の受講を促す内容を盛り込んだイベントを実施することで、様々な年齢層のつながりがもてるようにしていくことができると考える。また、イベント実施後に、振り返る機会を設けることで、今後の活動の継続を促すことができると考える。

## III 研究の方向性

中央教育審議会生涯学習分科会「今後の生涯学習・社会教育の振興方策（重点事項）について」（令和5年）では、重点事項（3）学びと実践の場としての機能強化の具体策②として「子供や若者が集い学び合う場としての社会教育施設の推進」を掲げ、「若い世代の声を公民館の運営に反映させることを促進するとともに、社会教育施設が子供や若者の集い学び合う場となり、子供の居場所としての役割も果たせるよう」にしている【資料8】。

他都市の先進事例では、様々な年齢層を取り込む工夫として、様々な年齢層が関わりの合う場や、気軽に立ち寄れる場を継続的に設けていた。また様々な年齢層がつながりをもつための工夫として、イベント開催に向け、魅力的な資源（場所）を活用したり、他所と連携し、様々な年齢層の受講を促す内容を盛り込んだりしていた。

本市においても、センターを中心として、人が集まる魅力的な資源を活用することが必要である。また、運営する人も、受講する人もお互いにウェルビーイングをめざしていくことが必要である。

本市においては、若年者層を社会教育施設に呼び込む事業に取り組むだけでなく、各区で活躍しているなごや学マイスターグループや自主学習グループ等で生涯学習に取り組む人など様々な年齢層とのつながりを期待したい。その際に以下のことを留意して進めていく。

- ・ 対象は、どの年代でも取り組めるように「どなたでも」とする。
- ・ つながりを生むことができるようにする。
- ・ 継続的な活動ができるようにする。

#### IV 研究の内容

本市の社会教育主事が担当している社会教育施設としては、センター、女性会館、名古屋市科学館、青少年交流プラザ、青少年宿泊センター等がある。立地やこれまでの経緯等を踏まえ、各施設で、様々な年齢層を取り込んだ生涯学習推進をしていくことで、若年者が社会に役立っているという達成感を感じ、人とつながることができるような効果が期待できると考える。

本年度は、瑞穂生涯学習センター、南生涯学習センターでの事例を立案、実行することで、社会教育施設を中心として様々な年齢層がつながりをもつことができる取組を見出していく。

## 1 瑞穂生涯学習センターを活用した事例①

タイトル	つくって簡単！ 遊んで楽しい！ ワクワク工作！【図1】
ねらいと工夫	工作の楽しさを知ったり、大学生と子どもがふれあったりして、コミュニケーションを深めることができるようにする。瑞穂生涯学習センターで活動している「井戸田セツルメント」と協働で行う。コロナ禍で活動を進めることができなかった大学生に活動の機会を与えるとともに、子どもや親子などに対して、センターが気軽に立ち寄ることができる場所であることを知ってもらえるように広報する。
時期	9月24日（日）（こどもまつり講座の成果発表が3月に行われるので、その広報もかねて）
会場	瑞穂生涯学習センター・ロビー
対象	幼児とその保護者、小学生、中学生（保護者同伴可）
交流の仕方	大学生が、受講者に対して工作を教える。隣接している惣作公園で遊び方を教えることで、コミュニケーションをとることができるようにする。
事業終了後	大学生団体と交流する事業を定期的開催し、センターの利用に結び付ける。

令和5年度 瑞穂生涯学習センター事業

**対象:どなたでも**  
 (主に幼児とその保護者、小学生、中学生)  
 定員:80名ほどを予定しています。  
 事前申込不要・参加費無料

**つくって簡単！ 遊んで楽しい！  
 ワクワク工作！**

「ひまわり風車」を作って、遊ぼう！  
 対象は主に幼児、小学生、中学生を対象にしていますが、どなたでも参加OKです！さあ、瑞穂生涯学習センターへ、レッツゴー！

**日時** 2023. 9. 24 (日) 午前の部 10:00~12:00  
 午後の部 13:00~15:00  
 ※ はさみ、のりをお持ちください。



**会場** 瑞穂生涯学習センター ロビー

**講師** 井戸田セツルメント

日本福祉大学のサークルです。瑞穂生涯学習センターでは、3月に行われる「こどもまつり」で講座に関わっています。毎月第2または第3日曜に瑞穂生涯学習センター前の惣作公園で活動を行っています。保育士や社会福祉士をめざす学生で活動をしています。

【図1】 瑞穂生涯学習センターを活用した事例① チラシの一部

瑞穂生涯学習センターを活用した事例① 結果と講座の様子・今後

日時	9月24日（日） 午前の部10:00～12:00 午後の部13:00～15:00
対象・定員	幼児とその保護者、小学生、中学生（保護者同伴可）・80人程度
受講者数 (充足率)	54人・68%（定員80人）（内訳はアンケート回答者44人のもの） 内訳 10代以下21人・20代3人・30代5人・40代10人・無回答5人
内容	・ 「ひまわり風車」を作り、大学生と一緒に遊ぶ。
留意点	・ 受講者の安全管理とともに一緒に工作をしたり遊んだりする中で、受講者のやる気を高めるように褒める、認めるといった声掛けをするように依頼した。
結果	<p>○ 講座終了後のアンケート結果 大変満足 38人 ほぼ満足 4人 少し不満 0人 不満 0人 無回答 2人</p> <p>○ 受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人見知りの子だったが、多くの学生の方に声をかけてもらい、最後はうれしそうに遊ぶ子どもの姿を見ることができてよかった。</li> <li>・ 人との交流が少なくなる時期を過ごしていたので、良い機会だった。</li> <li>・ 子どもがもう少し大きくなったらまた受講したい。</li> </ul> <p>○ 大学生の声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作った後に遊び、子どもから大人まで幅広い年齢の方と交流できた。</li> <li>・ 次のワークショップも楽しみ。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ロビーで工作を楽しむ様子】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【大学生と惣作公園で遊ぶ様子】</p> </div> </div>
講座の様子 ・ 今後	<p>○ 見本を見せながら、作り方や遊び方について優しく教える姿が見られた。作り終わった後に受講生と一緒に遊ぶ場面では、常に横について安全管理をすることができた。また、積極的に受講者とコミュニケーションをとったり、風車がよく回る方法を受講者と一緒に考えたりして、楽しく遊べるようにしていた。</p> <p>○ 受講者が大学生と公園で遊んでいる様子を見て、公園で遊んでいた親子連れや小学生、中学生がセンターに立ち寄り、受講していた。普段ふれあうことのできない大学生とのコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。</p> <p>○ 日程を相談しながら、負担のないように継続できるようにしていきたい。</p>

## 2 瑞穂生涯学習センターを活用した事例②

タイトル	この指とまれ！ つくって遊ぼう！ ワクワク工作！【図2】
ねらいと工夫	工作の楽しさを知ったり、ボランティアと子どもがふれあったりして、コミュニケーションを深めることができるようにする。ボランティア団体に活動の機会を提供するとともに、子どもに対して、センターが気軽に立ち寄ることができる場所であることを知ってもらう機会とする。瑞穂生涯学習センターで活動している「ACCA（愛知キャンプカウンセラー協会）」と協働で行う。
時期	12月17日（日）（クリスマス行事に近い日程で、多数の部屋利用が見込まれるため）
会場	瑞穂生涯学習センター・ロビー
対象	幼児とその保護者、小学生、中学生（保護者同伴可）
交流の仕方	ボランティアが、受講者に対して、材料を一緒に選んだり、作り方を教えたりしてコミュニケーションをとることができるようにする。
事業終了後	大学生団体と交流する事業を定期的に行い、センターの利用に結び付ける。

令和5年度 瑞穂生涯学習センター事業

# この指とまれ！

## つくって遊ぼう！ワクワク工作！

対象：どなたでも（主に幼児とその保護者、小学生、中学生）  
定員：80名ほどを予定しています。事前申込不要・参加費無料

「クリスマスリース」「ジャンプサンタ」「のぼるトナカイ」から作りたいものを選んで作って、遊ぼう！どなたでも参加OKです！  
さあ、瑞穂生涯学習センターでこの指とまれ！

**日時** 2023. 12. 17（日） 午前の部 10:00～12:00  
午後の部 13:00～15:00

※ はさみ、のりをお持ちください。

**会場** 瑞穂生涯学習センター ロビー

**講師** ACCA（愛知キャンプカウンセラー協会）

愛知県の四年制大学の学生によって構成されるキャンプカウンセラー団体です。キャンプカウンセラーとは、キャンプを楽しくするためにお手伝いをする人のことです。瑞穂生涯学習センターでは3月に行われる「こどもまつり」で講座に関わっています。瑞穂区を中心に子ども向けのイベントを毎月行っています。






【クリスマスリース】      【ジャンプサンタ】      【のぼるトナカイ】

【図2】瑞穂生涯学習センターを活用した事例② チラシの一部

瑞穂生涯学習センターを活用した事例② 結果と講座の様子・今後

日時	12月17日（日） 午前の部10:00～12:00 午後の部13:00～15:00
対象・定員	幼児とその保護者、小学生、中学生（保護者同伴可）・80人程度
受講者数 (充足率)	72人・90%（定員80人）（内訳はアンケート回答者41人のもの） 内訳 10代以下28人・無回答13人
内容	・ 「クリスマスリース」「ジャンプサンタ」「のぼるトナカイ」から作りたいものを選んで、ボランティアと一緒に作って、遊ぶ。
留意点	・ 受講者の安全管理とともにやる気を高めるように褒める、認めるといった声掛けをするように依頼した。また部屋利用をしている様々な年齢層でも楽しめるような工作の内容を依頼した。
結果	<p>○ 講座終了後のアンケート結果 大変満足 32人 ほぼ満足 9人 少し不満 0人 不満 0人</p> <p>○ 受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段家ではなかなか子どもと工作はできないので、親子で季節の工作を楽しめて良かった。</li> <li>・ たまたま入ってイベントをやっていたのでとてもありがたかった。工作は家では全くやらないので、できあがってとてもうれしそうだった。</li> <li>・ 他の人と交流しつつ仲良くなることができた。</li> <li>・ 子どもの様子を見ながら丁寧に教えてもらうことができた。</li> <li>・ 学校とは違った経験ができてよかった。家でも遊ぼうと思う。</li> <li>・ また、センターに来たいと思った。</li> </ul> <p>○ ボランティアの声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の機会が少なくなっていたので、事業に協力することができてよかった。</li> <li>・ 子どもだけでなく、様々な年齢層の方とふれあう中で会話が弾み、喜ぶ声を聞くことができて良かった。</li> <li>・ この取組を続けていきたい。</li> </ul>
講座の様子 ・ 今後	<p>○ ボランティアが作り方の説明書を用意し、受講後でも楽しむことができるように工夫していた。受講者はボランティアと関わりながら、楽しそうに材料を選んでいった。部屋利用を終えた人も帰りに寄って受講し、ボランティアに教えてもらいながら工作を楽しむ様子が見られた。</p> <p>○ 当日はクリスマスの時期で、部屋利用の来館者が多くいたことが、多数の受講につながったと考える。部屋利用に合わせて弾力的に事業を開催したり、時期に合わせた内容を行ったりして、今後も事業を続けていきたい。</p>



【ボランティアと一緒に材料を選ぶ様子】

### 3 南生涯学習センターを活用した事例

タイトル	オブザベーション・タワーを組み立てて楽しもう！【図3】
ねらいと工夫	レゴ®ブロックを使用した作品作りを通して、遊びながら組み立て方を知る。自由に組み立てる際の創造力・発想力につなげていく。また、限られた時間の中で取り組むことを通して集中力を養う。親子またはユースボランティアと受講者との交流を通し、センターを中心とした新たなつながりができるようにする。
時期	12月10日（日）
会場	南生涯学習センター 視聴覚室
対象	どなたでも（概ね3歳以上・未就学児は保護者の同伴が必要）
交流の仕方	青少年交流プラザのユースボランティアが、受講者に対して、組み立てる上で「いいね」と思うところに声を掛け、コミュニケーションをとることができるようにする【図4】。
事業終了後	ユースボランティアと交流する事業を定期的開催し、センターの利用に結び付ける。

**【公開講座】**  
**オブザベーション・タワーを  
組み立てて楽しもう！**

レゴ®ブロックを組み立てながら、親子または青少年交流プラザのボランティアの方と交流を深めましょう。  
 (作品の写真撮影はできますが、お持ち帰りはできません)  
 ※概ね3歳以上を対象としています。  
 未就学児は保護者の同伴が必要です。

**【日時】**12月10日(日)  
 ①午前の部(10:30～ 11:30～)  
 ②午後の部(14:00～ 15:00～)  
 (各回30分程度)

**【講師】**レゴランド®・ジャパン スタッフ  
**【会場】**視聴覚室  
**【対象・定員】**どなたでも・各回20人×4回(計80人)  
**【費用】**無料  
**【申込】**「往復はがき」、または「インターネット」  
 表紙(講座の申込について)をご覧ください。  
**【締切】**11月15日(水) 必着

申し込みの際は、①午前の部②午後の部のどちらかを選択してください。  
 当選された方のみ先着順にて受付時に希望の時間帯を選択できます。  
 受付は9:30(午前の部)と13:00(午後の部)から開始します。

【図3】南生涯学習センターを活用した事例  
令和5年度後期講座案内の一部

**レゴ®ブロックを使ったワークショップの  
ユースボランティア  
だいじゅー！**

<b>名</b> 青少年交流プラザ分館 古屋市青少年宿泊センター <b>日時</b> 11月3日(金祝) 9:00～16:00 レクチャー 子ども対象講座 9:00～10:00 ① 11:00～11:45 ② 13:00～13:45 ③ 15:00～15:45 <b>謝金</b> 1800円(児童支給) <b>人数</b> 5名(交通費込)	<b>南</b> 生涯学習センター <b>日時</b> 12月10日(日) 9:00～16:00 レクチャー 子ども対象講座 9:00～10:00 ① 10:30～11:00 ② 11:30～12:00 ③ 14:00～14:30 ④ 15:00～15:30 <b>謝金</b> 3300円(交通費込) <b>人数</b> 10名
--	--

**活動内容** (ユースボランティアは高校生～ヨウ年を対象としております)  
 レゴランド®・ジャパンのスタッフさんから、子どもがレゴ®ブロックを組み立てるときのサポートをレクチャーしていただき、その後、実際に子どもの活動を支援します。



**申込期間** 10/1(日)～10/13(金)

**ユースボランティアって...?**  
 名古屋青少年交流プラザ、生徒・学生・若者団体・地域・施設などが企画するイベントスタッフなどの個人ボランティアとして活躍してもらいます！  
 当事業に参加後、自動的にユースボランティアに登録されます。  
 主催 名古屋青少年交流プラザ TEL 052-991-8440  
 協賛 名古屋トヨタエンタテインメント・ShoPro共同事業体

お申込み方法はウラ面に記載してあります

【図4】南生涯学習センターを活用した事例  
ユースボランティア募集チラシ

南生涯学習センターを活用した事例 結果と講座の様子・今後

日 時	12月10日（日）午前の部10:30～・11:30～ 午後の部14:00～・15:00～
対象・定員	どなたでも（概ね3歳以上・未就学児は保護者の同伴が必要）
受講者数 （充足率）	25人・31%（定員80人） 内訳 10代以下25人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オブザベーション・タワーを組み立てる。</li> </ul>
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年交流プラザのユースボランティアが受講者のやる気を引き出す声掛けができるように、レゴランド®・ジャパン・スタッフにユースボランティアへのレクチャーを依頼した。</li> <li>・ 講座の前後の時間にセンターのくつろぎ広場を活用し、ユースボランティアと受講者がふれあえるようにした。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 講座終了後のアンケート結果 大変満足 19人 ほぼ満足 6人 少し不満 0人 不満 0人</li> <li>○ 受講者の声 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レゴランド®・ジャパン・スタッフやユースボランティアのお兄さん、お姉さんに教えてもらいながらできるところがよかった。</li> <li>・ 子どもがたくさん褒めてもらえてうれしそうだった。</li> <li>・ 普段使ったことのないパーツを組み合わせたり、自分で回したりして親子でとても楽しめた。また受講したい。</li> </ul> </li> <li>○ ユースボランティアの声 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかなかできない経験ができて、楽しかった。</li> <li>・ プロのスタッフから子どもとの接し方を学ぶことができてよかった。</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【組み立てている様子】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【くつろぎ広場でふれあう様子】</p> </div> </div>
講座の様子 ・ 今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受講者のやる気を引き出すように、大きな動作で気持ちを表現したり、具体的に褒めたりしながら、作り方を優しく教える姿が見られた。ユースボランティアは、レクチャーで学んだことを生かして積極的に関わっていた。</li> <li>○ 活動の前後には、くつろぎ広場で受講者とユースボランティアとが楽しく遊ぶ姿が見られた。くつろぎ広場で幼児・小学生とユースボランティアが交流する活動には、ニーズがあると考え、今後もくつろぎ広場の活用の仕方を考えていきたい。</li> </ul>



## V おわりに

今年度行った3つの事例をもとに、以下のような結果が得られた。

瑞穂生涯学習センターにおいて、魅力的な資源（人）として例年こどもまつり講座で関わっている大学生団体とのつながりを生かすことや、魅力的な資源（場所）として、センター前にある公園を活用することで事業につなげた。大学生と受講者が作品を使って遊んだり、大学生が公園に訪れた人に声を掛けたりして、多数の受講者にロビーに立ち寄ってもらうことができた。

今後もつながっていくために、大学生団体に負担がないように継続していく必要がある。今回のように単発で行うことは可能であったが、年間を通して計画を立てることについては課題が残った。

また、12月に行った事業では、センターの各部屋でクリスマスにちなんだイベントを行っており、来館者も多く、午前、午後合わせて72人の受講があった。また、様々な年齢層に受講してもらうことができた。時期に合わせた内容を扱ったり、センターの部屋利用に合わせ、弾力的に日程を設定したりすることで多くの受講が見込めることが分かった。

講師となったどちらの大学生やボランティアも、これまでの活動以上に幅広い年代、多数の受講者と交流することができ、達成感を感じていた。

南生涯学習センターにおいて、魅力的な資源（しかけ）として、レゴランド®・ジャパンを活用した事業を開催した。また、魅力的な資源（人）として、青少年交流プラザのユースボランティアを活用した。レゴランド®・ジャパンは講座前に受講者への声掛けについて、ユースボランティアにレクチャーし、ユースボランティアにとっての学びの機会ともなった。また、魅力的な資源（場所）として、南生涯学習センターのくつろぎ広場を活用して講座・事業の待ち時間で行う事業も併せて行うことができた。青少年宿泊センターの協力を得て「出張！まるっとしゅくセン」を行い、講座・事業の受講者のみでなく、部屋利用で訪れた来館者もボードゲームやカードゲームを通して、ユースボランティアと関わり合うことができた。ユースボランティアも学んだことを当日生かすことができた。ユースボランティア同士で活動を振り返った際には、教えてもらったことをすぐに生かすことができ、多くの子どもと関わることもできたことに達成感を感じている様子や、今後も活動したいという前向きな声もあった。

しかし、午前、午後で受講者数に偏りがあり、広報面で課題が残った。より多くの受講者を集めることができるように開催時期や広報を工夫していく必要がある。

以上を踏まえ、他のセンターでの実現の可能性を考えると、活用できそうな魅力的な資源として、以下のようなものが挙げられる。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ センターに関わる団体（人）</li><li>・ センター近くにある公園や図書館などの人が集まる場所（場所）</li><li>・ センターで定期的で開催している講座・事業（しかけ）</li></ul> |
|---|

これらの魅力的な資源を活用し、全市的に取組を進めていくことで、次ページ【図5】のように、若年者が社会に役立っているという達成感を感じ、人とつながることができるよう、社会教育施設を中心として様々な年齢層がつながりをもつことができるようにしていきたい。



【図5】 様々な年齢層を取り込んだ生涯学習推進の在り方

## 資料編 目次

【資料1】教育振興基本計画(令和5年6月) . . . . .	1
【資料2】生涯学習に関する市民意識調査 —市民の学習状況と学習志向に関する調査—報告書(令和4年3月) . . . . .	3
【資料3】生涯学習に関する市民意識調査 —市民の学習状況と学習志向に関する調査—報告書(令和4年3月) . . . . .	4
【資料4】令和5年版名古屋市生涯学習センター年報 . . . . .	5
【資料5】島根県久佐公民館の事例 . . . . .	6
【資料6】島根県玉湯公民館の事例 . . . . .	7
【資料7】青森県鶴田町公民館の事例 . . . . .	8
【資料8】今後の生涯学習・社会教育の振興方策(重点事項)について(令和5年)	12

## 【資料 1】教育振興基本計画（令和 5 年 6 月）

### II. 今後の教育政策に関する基本的な方針

（総括的な基本方針・コンセプト）

（中略）

（1） 2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- グローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の格差などの社会課題やロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化の中で、一人一人のウェルビーイングを実現していくためには、この社会を持続的に発展させていかなければならない。特に我が国においては少子化・人口減少が著しく、将来にわたって財政や社会保障などの社会制度を持続可能なものとし、現在の経済水準を維持しつつ、活力あふれる社会を実現していくためには、一人一人の生産性向上と多様な人材の社会参画を促進する必要がある。また、社会課題の解決と経済成長を結び付けて新たなイノベーションにつながる取組を推進することが求められる。Society5.0 においてこれらを実現していくために不可欠なのは「人」の力であり、「人への投資」を通じて社会の持続的な発展を生み出す人材を育成していかなければならない。
- こうした社会の実現に向けては、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要である。将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められる。

（中略）

（2） 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。

（中略）

- 日本社会に根差したウェルビーイングの要素としては、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現（達成感、キャリア意識など）」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などが挙げられる。これらを、教育を通じて向上させていくことが重要であり、その結果として特に子供たちの主観的な認識が変化したかについてエビデンスを収集していくことが求められる。なお、協調的幸福については、「同調圧力」につながるような組織への帰属を前提とした閉じた協調ではなく、他者とのつながりやかかわりの中で共創する基盤としての協調という考え方が重要であるとともに、物事を前向きに捉えていく姿勢も重要である。

- ウェルビーイングと学力は対立的に捉えるのではなく、個人のウェルビーイングを支える要素として学力や学習環境、家庭環境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じていくという視点が重要である。また、社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育成する視点も重要である。さらに、組織や社会を優先して個人のウェルビーイングを犠牲にするのではなく、個人の幸せがまず尊重されるという前提に立つことが必要である。

(中略)

- さらに、生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切である。
- ウェルビーイングが実現される社会は、子供から大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。社会全体のウェルビーイングの実現に向けては、個人のウェルビーイングが様々な場において高まり、個人の集合としての場や組織のウェルビーイングが高い状態が実現され、そうした場や組織が社会全体に増えていくことが必要となる。子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がり一人一人の子供や地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる。

(中略)

### ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進 (社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成)

- 社会教育は、地域住民が共に学ぶものであり、地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。近年、防災、福祉、産業振興、文化交流など、広義のまちづくり・地域づくりに関する多様な行政分野において、その地域課題の解決に向けて、関係省庁が地域コミュニティに関する政策を提示している。これらの政策は地域コミュニティが維持されていてこそ機能するものであり、社会教育の役割が重要となる。
- 地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められる。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされる。地域で人と人とのつながりを作り、協調的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが自信と誇りを持つことができるようにしていく必要がある。

(中略)

(公民館等の社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成と活躍機会の拡充)

(中略)

- また、社会教育施設には、オンラインによる講座等の受講機会の拡充やデジタル教育の充実とともに、住民同士が対面によりつながりを持てる機会の充実も求

められる。あわせて、学校施設との複合化や、文教施設を官民連携で整備することも、地域コミュニティの拠点を形成する上で重要である。

- 社会教育に対するニーズが高まる中、地域において社会教育活動を支える社会教育主事及び社会教育士の役割はその重要性を増している。都道府県・市町村における社会教育主事の配置促進や社会教育士の活躍機会の拡充に向けた取組を推進することが必要である。

## 【資料 2】生涯学習に関する市民意識調査

### —市民の学習状況と学習志向に関する調査—報告書（令和 4 年 3 月）

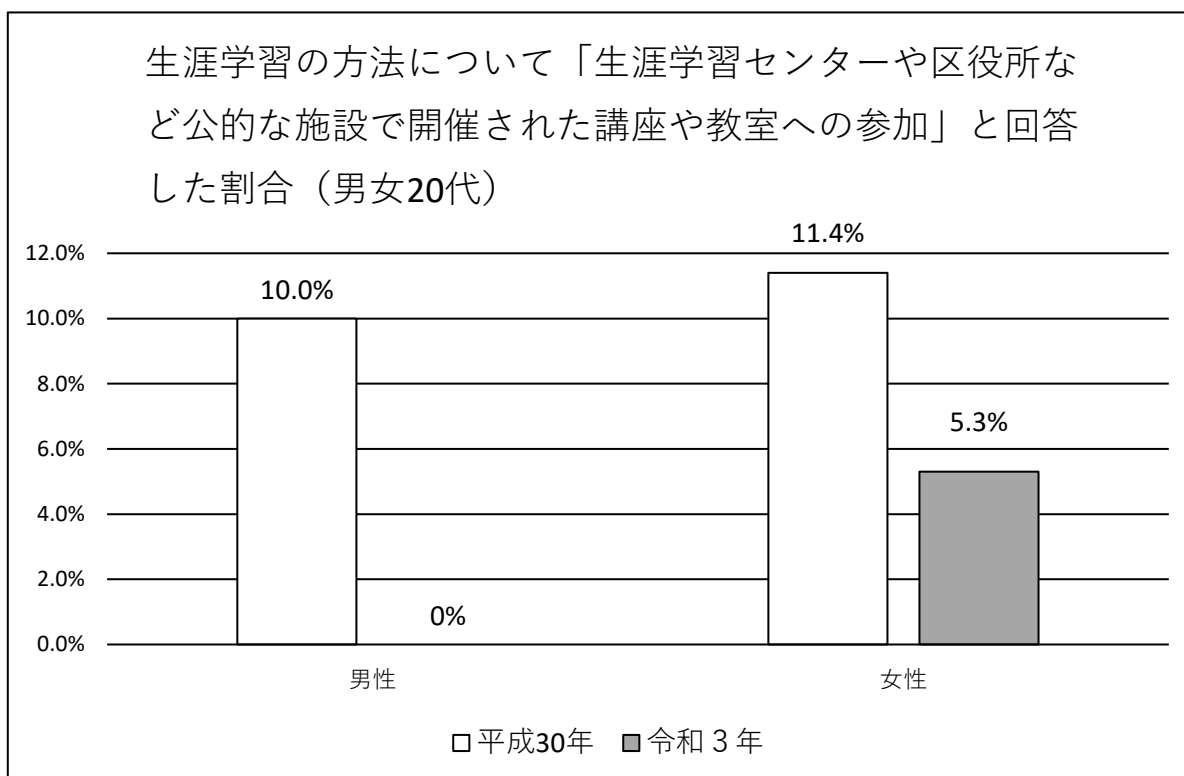
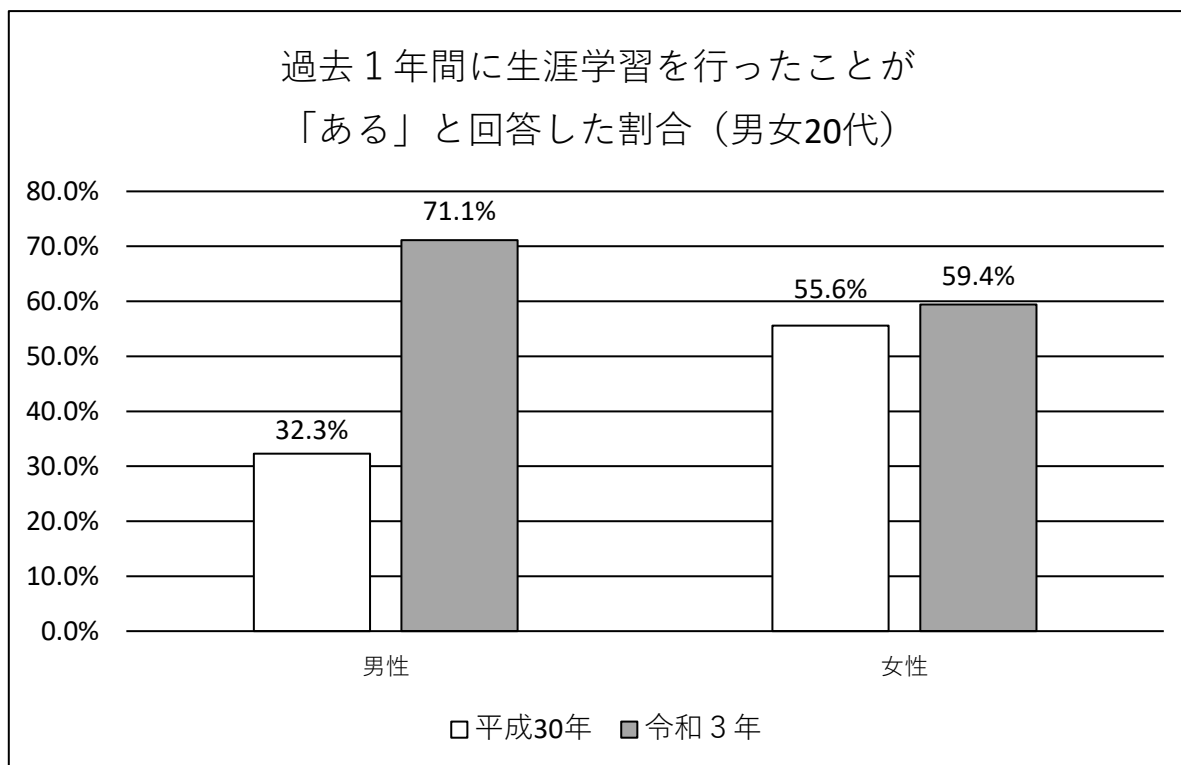
#### (5) 10 代の意識・動向

令和 4 年 4 月から成人年齢が引き下げられることを受け、今回調査より対象年齢を、それまでの「20 歳以上」から「18 歳以上」に変更した。そこから見えてきた 10 代の生涯学習に対する意識・動向としては、過去 1 年間に生涯学習を行ったことが「ある」と回答した割合は 55.6%であり、全体を大幅に上回っていた。

生涯学習の方法については、「大学」46.7%、「自主的なグループや仲間」53.3%、「個人」53.3%が全体を大幅に上回っている一方、「公的な施設」「民間」と回答した割合は 0%であった。また、生涯学習情報の入手方法では「インターネット（SNS 以外）」と回答した割合が 14.8%（全体の半分程度）であるのに対し、「SNS」と回答した割合は 51.9%（全体の 3.5 倍以上）であった。さらに「大学」と回答した割合も 22.2%と全体の割合を大きく上回っており、他の年代とは傾向に明らかな違いが見られた。

【資料3】生涯学習に関する市民意識調査

—市民の学習状況と学習志向に関する調査—報告書（令和4年3月）



【資料4】令和5年版名古屋市生涯学習センター一年報

4 定期講座

(1) 年代別受講者数

(単位：人)

区分	合計		千種		東		北		西		中村		中		昭和		瑞穂		熱田	
	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%
合計	3,607	100	233	100	244	100	232	100	218	100	209	100	200	100	217	100	201	100	230	100
10代以下	236	6.5	9	3.9	26	10.7	6	2.6	8	3.7	4	1.9	9	4.5	10	4.6	25	12.4	27	11.7
20代	55	1.5	6	2.6	2	0.8	2	0.9	4	1.8	3	1.4	1	0.5	1	0.5	-	-	4	1.7
30代	210	5.8	19	8.2	13	5.3	12	5.2	14	6.4	12	5.7	13	6.5	11	5.1	15	7.5	10	4.3
40代	352	9.8	30	12.9	27	11.1	14	6.0	17	7.8	11	5.3	12	6.0	27	12.4	37	18.4	22	9.6
50代	326	9.0	31	13.3	19	7.8	23	9.9	20	9.2	22	10.5	20	10.0	22	10.1	27	13.4	19	8.3
60代	751	20.8	53	22.7	50	20.5	50	21.6	49	22.5	51	24.4	42	21.0	52	24.0	30	14.9	51	22.2
70代	1,297	36.0	73	31.3	86	35.2	97	41.8	70	32.1	96	45.9	75	37.5	80	36.9	57	28.4	81	35.2
80代以上	303	8.4	10	4.3	21	8.6	23	9.9	23	10.6	10	4.8	19	9.5	14	6.5	10	5.0	16	7.0
無回答	77	2.1	2	0.9	-	-	5	2.2	13	6.0	-	-	9	4.5	-	-	-	-	-	-

区分	中川		港		南		守山		緑		上汐田		名東		天白	
	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%	人数	比%
合計	230	100	185	100	201	100	232	100	235	100	82	100	219	100	239	100
10代以下	10	4.3	3	1.6	8	4.0	18	7.8	29	12.3	-	-	10	4.6	34	15.6
20代	3	1.3	1	0.5	4	2.0	11	4.7	6	2.6	-	-	3	1.4	4	1.8
30代	6	2.6	8	4.3	9	4.5	10	4.3	22	9.4	-	-	14	6.4	22	8.3
40代	20	8.7	10	5.4	16	8.0	14	6.0	45	19.1	1	1.2	14	6.4	35	11.9
50代	22	9.6	14	7.6	7	3.5	21	9.1	15	6.4	1	1.2	25	11.4	18	6.0
60代	46	20.0	51	27.6	51	25.4	48	20.7	30	12.8	10	12.2	49	22.4	38	16.5
70代	85	37.0	76	41.1	88	43.8	91	39.2	50	21.3	44	53.7	78	35.6	70	31.7
80代以上	28	12.2	19	10.3	17	8.5	19	8.2	6	2.6	26	31.7	24	11.0	18	8.3
無回答	10	4.3	3	1.6	1	0.5	-	-	32	13.6	-	-	2	0.9	-	-

※項目ごとに四捨五入をしているため、合計しても小数点以下の数字が合わないことがある。

※緑生涯学習センターの講座「心臓病のあれこれ」は、ZoomによるLive配信だったため、年代がわからないので、「無回答」欄に計上した。



【資料5】島根県久佐公民館の事例

11 久佐公民館

事業名 県地域課題解決型公民館支援事業

～若者を取り込み若者と取り組む地域づくり～ 『ふるさと遊楽校』

P

事業の目的

- ◎ 子供をもつ保護者同士の交流を図るとともに、その世代を地域活動に参画させることで、持続力のある地域づくりをめざす。
- ◎ 地域だからこそできる体験プログラムを作成することで、地域の魅力を再発見につなげる。
- ◎ 近隣の公民館とタイアップし、活動に参加することで、交流の機会を広げる。

見込まれる成果・効果

- ◎ 多世代が参画することで、将来に向けた持続性のある取組になる。
- ◎ あらゆる世代の交流の場の提供を提供することで、参加者の拡充が見られ、将来的には、「参加者→担い手(参画者)」へ向かう。(土台作りの場)

入口

住民の動きをつくる事業の性質

出口

きっかけづくり

- ◎ 若者と話し合う場所作り
- ◎ 活動に対する意識調査
- ◎ 活動事例の紹介

動きづくり

- ◎ 実行委員形式の会議を開催
- ◎ スケジュールの作成
- ◎ 協力団体の呼びかけ

まちづくり実践活動の姿

- ◎ イベントの開催
- ◎ 実践活動へのフォーラム
- ◎ プログラムの確立

D

事業の概要

- |   |   |
|---|---|
| ○若者と公民館の話し合い(4/21)<br>(意識調査)            | ○ふるさと遊楽校～第3弾～(7/31)<br>『どうもこし収穫体験』へ参加     |
| ○第1回実行委員会開催(6/8)<br>(プログラム作成)           | ○ふるさと遊楽校～第4弾～(8/20)<br>『案山子作り』            |
| ○第2回実行委員会開催(6/30)<br>(スケジュールの作成・内容の確認)  | ○ふるさと遊楽校～第5弾～(11/6)<br>『さつまいもの販売』         |
| ○ふるさと遊楽校～第1弾～(7/16)<br>『ハッチョウトンボ観察会』へ参加 | ○ふるさと遊楽校～第6弾～(11/13)<br>『久佐探検～地域を歩いて知ろう～』 |
| ○ふるさと遊楽校～第2弾～(7/24)<br>『小国ふれあい交流会』へ参加   | ○第3回実行委員会(1/13)<br>『振り返り、次年度へむけて』         |



案山子作り



久佐探検

さつまいもの販売



振り返りの会では次年度へむけて、前向きな意見がたくさん出ました。

カリタの配布

C

成果・課題

- ◎ 新たな交流の場を提供し、人材の掘り起こしができた。
- ◎ 活動を通して、今まで知らなかった地域の魅力を発見できた。
- ◎ 振り返りの場を持つことで継続性のある事業となった。
- ◎ 地域外公民館と交流し、視野の拡大となった。
- △ 協力団体への呼びかけが必要である。
- △ 活動の期間が集中し負担が多かったため、事業内容と実施時期を見直す必要がある。

A

改善点

- ◎ プログラムの内容を各集落に周知し、地域内にある各団体へ参加協力を得る。
- ◎ 参加しやすい日程調整を図るために、各団体との連携会議を設定する。

# 玉湯まちづくり総合戦略

【基本目標】

玉湯 っいていいね!

が あふれる元気なまちにしよう!

玉湯町人口

6,500 人の維持

- ★ 『場（拠点）づくり』
- ★ 『ひとづくり』
- ★ 『仕事づくり』

玉湯町の歴史や風土を活かした拠点を創ろう！  
 幸せ指数の高い暮らしを実現しよう！  
 雇用と稼ぎを生む仕組みを創ろう！

【基本的方向】 実現に向けた3本の矢（まちづくりミックス）

- 玉湯の歴史や文化・風土などの地域資源を有効に活用し、いつまでも住んでいたい地域づくりに取り組む。
- 人の心を思いやり、地域の住民同士が共に支え合うことができる環境を整備し、子どもがふるさと教育、若者の定住促進、お年寄りのケア、障がい者の支援などに取り組む。
- 玉造温泉街の観光振興を図るとともに、伝統工芸品や地元でとれる農作物等を有効に活用し、U・I・ターン者のケアを行いながら、安定した雇用や新しい産業の創出に取り組む。

【具体的な施策】

『場（拠点）づくり』

- ・ センダンまつりの実施
- ・ 玉湯文化祭など公民館活動の充実
- ・ 喫茶玉つばき、青ハト、よみきかせコスモス等のボランティア活動の推進
- ・ 公民館などでの自主学習の環境整備
- ・ 子ども居場所づくりの支援
- ・ 健康増進活動の促進
- ・ 高齢者の自主活動の促進
- ・ ママと子供のフェスティバル開催と子育て支援
- ・ 大谷ふたばの里のホタル保存活動
- ・ 湯の郷たまゆらろう会の活動支援
- ・ きれいなまちを目指す環境整備
- ・ 防災活動の実施
- ・ 伝統行事（盆踊り、宮練り、夏祭り、餅つきなど）の継承

『ひとづくり』

- ・ たまゆら、日連会、東会などの若者組織の活動支援
- ・ たまゆ成人式（仮）の実施
- ・ 自治会のスポーツ活動の実施
- ・ 空き家対策と活用
- ・ まがたま太鼓の支援
- ・ いきいきサロンの参加促進
- ・ ひだまり・まがたまなど障がい者の支援
- ・ お年寄りの見守り活動の支援
- ・ コミュニティサービスの利用促進（交通弱者対策）

『仕事づくり』

- ・ お茶屋祭りなど地元住民が集う温泉街イベントの実施
- ・ おすすわけ茶屋などNPO 湯の郷たまゆらの活動促進
- ・ 林本郷えこまや大谷わさび、大谷人情市場等の農作物の振興
- ・ 農事法人ピスケット等が行う農業体験の支援
- ・ 布志名焼きや勾玉など伝統工芸の継承
- ・ 玉造調理師会 式包丁の継承
- ・ まちテコをモデルとした起業支援
- ・ 温泉街の環境整備の実施

# 4

## キャンドルナイトでつながろう in 津軽富士見湖

鶴田町公民館事業プラン実行委員会  
活動の中心となる公民館：鶴田町公民館

### ① プランのねらい

平成25年度9月に本事業の前身であるキャンドルナイトを開催したところ、予想を上回る参加人数があり、参加者から「継続して欲しい。」との要望を得た。この声に応え、観光資源としての「夜の津軽富士見湖」のPRはもちろんのこと、このイベントに共感し、協力してくれた町内外のスタッフとの関わりを強め、津軽地方活性化のきっかけの1つとするため、キャンドルナイトを発展させ、さらに多くの方を巻き込むイベントにする。

### ② プランの工夫点

町内外の多くの方を巻き込むために、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を使って周知する。また、町内の幼稚園と保育園と連携しキャンドル作りワークショップを行い、園児とその家族を巻き込む。

当日しか食べられない鶴田の特産品スチューベンを使ったフードを開発・提供する。  
今後の活動につなげるためにアフターミーティングを開催する。

### ③ 実行委員会の組織

会 長：つるた街プロジェクト代表  
副会長：つるた街プロジェクト副代表  
委 員：つるた街プロジェクト及び鶴田町教育委員会社会教育班  
事務局：つるた街プロジェクト

### ④ 取組内容

- (1) キャンドル作りワークショップ
- (2) オリジナルフード作り
- (3) おでかけワークショップ
- (4) 津軽富士見湖キャンドルナイト
- (5) アフターミーティング

## 5 実施状況

### 1 キャンドル作りワークショップ

●7月28日他

【内容】公民館でのオリジナルキャンドル作りのワークショップ。

【回数】8回

【対象】町内外のキャンドルナイトやキャンドル作りに興味のある参加者。

【会場】鶴田町公民館

【講師】つるた街プロジェクトメンバー



Point

キャンドルナイト当日に使うオリジナルキャンドルを参加者自身が作ることで、一緒に作り上げるイベントにする。また、ワークショップを楽しむことで、今後の活動に協力してくれる人財を探す。

### 2 オリジナルフード作り

●6月27日他

【内容】キャンドルナイト当日に販売提供するオリジナルスイーツの開発。

【回数】5回

【対象】実行委員会メンバー

【会場】鶴田町公民館

【講師】奈良一江

【連携先】奈良一江



Point

鶴田町の特産であるスチューベンを使って、当日限定のオリジナルフード（スイーツ）を開発し、キャンドルナイト参加者へ鶴田町の特産をPRする。

### 3 おでかけワークショップ

●7月12日他

【内容】町内の幼稚園、保育園へ出張し、子どもたちとビンのキャンドルホルダー作りのワークショップを実施。

【回数】6回

【対象】町内の園児

【会場】町内の幼稚園、保育園6ヶ所

【講師】実行委員会メンバー

【連携先】ひなづる幼稚園、野木保育園、はやせ保育園、鶴田中央保育所、つるた乳幼児園、梅沢保育園（計6ヶ所）



Point

公民館ワークショップの前に（又は同時進行で）町内の幼稚園、保育園に出張し、当日キャンドルを入れるビンのホルダー作りを行って楽しんでもらいながら公民館ワークショップの宣伝。

また、当日展示をすることから子どもたちとその家族の参加を促す。



保育園等で作成されたキャンドルは、キャンドルナイト当日、会場に展示された

#### 4 津軽富士見湖キャンドルナイト

●9月14日

【内 容】 富士見湖パークの一部と鶴の舞橋をキャンドルで飾り、津軽富士見湖の夜の幻想的な雰囲気参加者に知ってもらい、楽しんでもらうイベント。

【回 数】 1回

【対 象】 町内外の参加者

【会 場】 富士見湖パーク、鶴の舞橋

【連携先】 富士見湖パーク、黒石キャンドルナイトスタッフ、クラフト・ワークショップ出店各所、棟方冷菓店、ショップMONKEY



Point

昨年度は夜のみイベントであったが、今回は日中からクラフトショップやワークショップ、夕方からキャンドルナイトを行い、BGMの生演奏、記念写真の撮影等で、参加者に楽しんでもらった。参加者数は約300人(チケット136人)。

#### 5 アフターミーティング

●11月15日

【内 容】 スタッフでイベントの反省会実施。

【回 数】 1回

【対 象】 イベント参加スタッフ

【会 場】 鶴田町公民館



Point

参加者や協力スタッフの意見を共有し、準備～当日までの企画、方法、手順を反省し、話合った。また、当日公民館では町民文化祭が行われていたため、鶴田町に根付いた行事に参加することもでき、改めて鶴田の良さを感じられる機会にもなった。

## 6 事業の成果

### 《ワークショップを通じてイベントに多くの人を巻き込む》

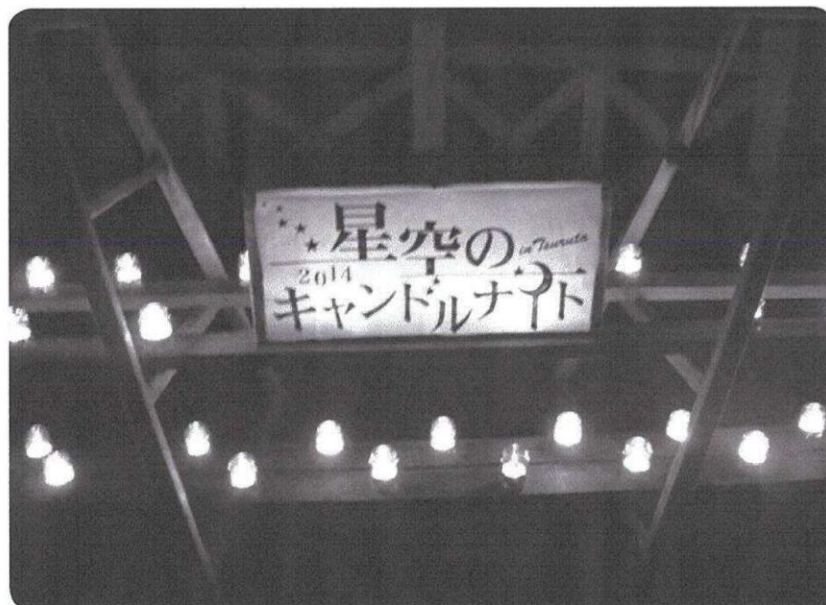
公民館ワークショップの参加者14名、イベント参加者約300名（内チケット136名）と昨年を上回り、目標に届く結果となった。また、町内の各幼稚園、保育園におでかけワークショップとして訪問したことにより、イベント当日に家族で訪れたり、噂を聞いて参加する方がいたり、参加者の増加につながったと考えられる。オリジナルフードも好評で、参加者へ鶴田町の特産品を少しでも知ってもらえるきっかけとなった。

また、鶴田町出身のアーティストにライブやBGM演奏を行ってもらうことができ、参加者に知ってもらうことができた。

参加者からは、キャンドルがきれいで良かった、装飾がこっていて楽しめた、ワークショップが楽しかった、ライブ、BGMが素敵だったという声があった。

課題としては、装飾が昨年よりも増えたことにより準備、片付けに予想以上の時間がかかったこと、参加者から会場自体がわかりづらいので、会場までの道の途中で案内板が欲しいという声があった。これについては次回のイベント実施につなげていきたい。

また、昨年度同様、町外から当日スタッフとして協力してくれた方々とつながりを深めることができた。



施設関係

### 重点事項（3）学びと実践の場としての機能強化

#### ○社会的包摂の実現に向けた学習支援

##### 具体策①：多様なニーズに応じた学びの支援

- ・ 公民館等の社会教育施設を拠点とし、社会教育人材のコーディネートにより、ICTやデジタルコンテンツ等も活用しながら、高齢者・障害者・外国人等のニーズに応じて生活に必要な学びを支援（福祉部局とも連携）。
- ・ 公民館や図書館等の社会教育施設が、地域学校協働活動や家庭教育支援チーム、NPO等と連携し、不登校や貧困等の様々な課題を抱える子供たちの受け皿としての役割を果たせるよう、優良事例を収集し、横展開を図ることで、社会教育施設における取組を促す。

#### ○子供や若者の社会教育への参加促進

##### 具体策②：子供や若者が集い学び合う場としての社会教育施設の推進

- ・ 若い世代の声を公民館の運営に反映させることを促進するとともに、社会教育施設が子供や若者の集い学び合う場となり、子供の居場所としての役割も果たせるよう、優良事例を収集し、横展開を図る。

#### ○リカレント教育の検索サイト「マナパス」との連携

##### 具体策③：公民館等での学びと大学等における学び直しとの接続

- ・ 社会教育での学びに加えて更に学びたい者が、大学等が提供する学習コンテンツの情報を得られるよう、リカレント教育の検索サイト「マナパス」等とも連携。

#### 工程表

	令和5年度		令和6年度		令和7年度以降
	4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	
令和4年度中					
具体策①	現代的諸課題や他機関等の連携促進をふまえた社会教育主事講習・研修内容の見直しの検討				
現代的諸課題に対応した学びに関する優良事例の収集、横展開	更なるニーズの把握・施策の検討				
様々な課題を抱える子供たちへの支援に関する優良事例の収集、横展開	更なるニーズの把握・施策の検討				
具体策②	マナパスとの連携・情報発信				
子供や若者が集い学び合う場としての社会教育施設の優良事例の収集、横展開	マナパスとの連携手法の検討				
具体策③	マナパスとの連携・情報発信				

10

## 様々な年齢層を取り込んだ生涯学習推進の在り方

発行年月 令和6年3月

発行部数 110部

発行 名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目1番4号

Tel 052-950-5031

Fax 052-950-5041